

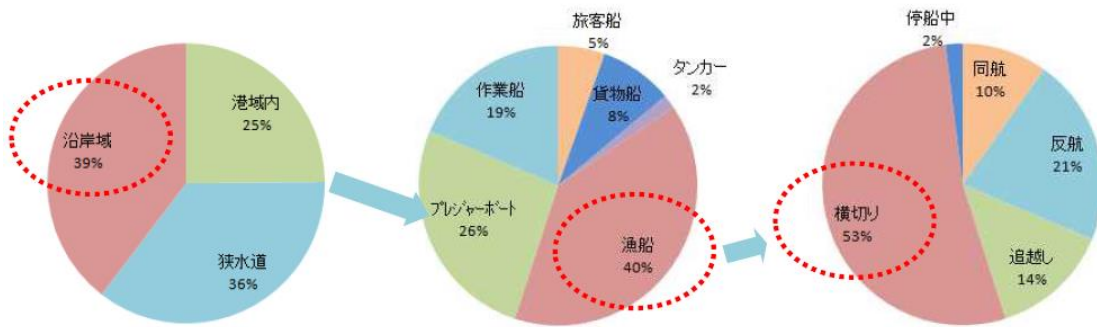
# 九州運輸局メールマガジン

## 第414号 令和元年8月8日（木）

### 運輸安全だより（安全取組事例の紹介）

#### 収集した事故情報、ヒヤリ・ハット情報の分類・整理、傾向の把握と活用方法

弊社では、10年来ヒヤリ・ハット情報を収集していますが、これらを分類・整理することで、ある傾向が見えてきました。気を遣う狭水道より「沿岸域」の方がヒヤリ事象が多く、相手方は「漁船」、その際の相手船の航行状況では「横切り」との集計結果でした。これに事故情報も加味し、この結果をいかに再発防止、未然防止につなげていくかを安全推進担当で議論しました。



まず、これらヒヤリ・ハットは、分類・整理が容易で、船員さんも記入しやすいように、以下のとおりに分類した報告用紙を作成し、その傾向がつかみやすい工夫をしました。

- ① 事故、ヒヤリ・ハットが発生した場所  
(沿岸域、港内、狭水路、変針点、岸壁・棧橋 等)
- ② 事故、ヒヤリ・ハットが発生した際の相手  
(漁船、プレジャーボート、貨物船、旅客船、作業船 等)
- ③ 事故、ヒヤリ・ハットが発生した際の航行状況  
(同航、反航、横切り、追越し、離着岸操船、停泊、錨泊 等)
- ④ 事故、ヒヤリ・ハットが発生した際にとった行動  
(保針、増速、機関停止、後進、右左転 等)
- ⑤ 事故、ヒヤリ・ハットの原因  
(操船不適切、見張り不十分、確認不十分 等)



事故の再発・未然防止策として、集約結果を皆で共有するとともに、多発しやすい状況や事例を軸とする取組を実施し、次年度にどう数字として表れるかを「見える化」し、乗組員にも認識してもらいます。

#### 分類・整理した結果の活用方法

- 沿岸域でのヒヤリ・ハットが多発していることから、「沿岸域航行時は、漫然運航撲滅」のキャンペーン実施
- 漁船とのヒヤリ・ハットが多発していることから、「漁船との事故」を安全重点施策で重点的に取り組む事故類型とし、関係官庁等からの漁業の種類、時期、特徴、形態等の情報収集と勉強会の計画的な実施。
- 操船不適切によるヒヤリ・ハットが多発していることから、経験不足の船員に対する教育の強化。
- 船員の意識として、ヒヤリ・ハットの原因が「相手」にあるとの認識であることから、相手に原因があるとしても自分にできることを考えさせる。(自船は安全運航していても、もらい事故もないとはいえません。)

★事故、ヒヤリ・ハットの傾向をより明確にするために、上図のとおり分類結果をグラフ化することで、イメージが掴みやすくなります。また、皆で1つの目的をやり遂げることもコミュ向上につながると思います。